

## 1 5年度第2回金沢市介護保険運営協議会議事録要旨

## 1. 会議の期日および場所

- (1) 平成16年3月1日(月)
- (2) 市役所7階全員協議会室

## 2. 出席委員

22人

## 3. 議事内容

- (1) 介護保険の実施状況について  
事務局より説明
- (2) 15年度高齢者事業実施状況について  
事務局より説明

## ○質疑応答

(委員)

## ①介護サービス未利用者調査について

- ・未利用の理由は何か。
- ・サービス利用限度額の半分ぐらいしか利用していない理由を分析してほしい。

## ②高齢者虐待防止事業について

- ・介護保険運営協議会と高齢者虐待防止連絡会はどのような関係か。
- ・在宅ばかりではなく、介護保険施設内でも虐待が起こっているようである。関係者の連携を強化してほしい。
- ・虐待についてはケアマネジャーによる間接的な調査となっている。  
虐待に対する認識を深めるためにも、直接調査する予定はないか。

## ③金沢健康プランについて

- ・推進会議ではどのような評価を得たのか。
- ・高齢者ばかりでなく働く人たちの健康づくりの取り組みも必要。

(事務局) ①介護サービス未利用者調査について

- ・未利用の理由は、入院中、家族介護で対応している、いざというときの備えとして認定を受けているというというケースが多い。
- ・調査の分析を進めていきたい。

## ②高齢者虐待防止について

- ・高齢者虐待防止連絡会は直接事例に関わる関係者の連絡会で

あり介護保険運営協議会との直接的なかかわりは薄い。

- ・在宅、施設関係者との連携を強化し実態を把握に努めたい。
- ・直接調査を実施するには、市民の虐待に対する認識がまだ浅い。市民意識の啓発を優先させたい。

### ③金沢健康プランについて

- ・三世代交流の事業展開、介護・痴呆予防事業、生きがいくりなど地域をあげての健康づくりが求められた。
- ・職場での健康づくりについては、まず栄養指導から取り組みたい。

(委員) ①要支援・要介護1の認定者が増えてきている理由は何か。介護予防のためにも、長寿安心プランと健康プランの連携を強めてほしい。

②家族などによる介護が長期化すると虐待も増えてくるのではないか。がんばらない介護へのアドバイスも充実させてほしい。

(事務局) ①介護保険制度の市民への浸透によりサービス利用意向が高まっているものと思う。

②介護疲労と虐待との関連については、現状把握が十分ではなく明確になっていないが、痴呆高齢者の介護者には疲れが見られる。要介護者の見守りだけでなく、介護者の見守り、負担の軽減に努めたい。

(委員) 高齢者虐待の解決方法として施設入所などによる分離があげられていたが、ケアマネジャーなどを介入させ介護負担を軽減し解決につなげられないのか。パンフレットの作成については、虐待の背景の分析や解決の成功事例もいれてみてはどうか。

(事務局) 虐待にはその背景にこれまでの人間関係の積み重ねがあり、他人が介入しにくい部分や介護負担の軽減だけでは解決できない部分がある。介護知識のない介護者や介護疲労から虐待につながるケースに対してはケアマネジャーなどと連携していきたい。

## (3) グループホームのあり方について

### 苦情等専門部会長から説明

- ・苦情等専門部会では市民から直接苦情相談を受けたり、市の窓口寄せられた苦情相談に対する市の対応のチェックをしたりしている。
- ・評価事業や未利用者調査の項目の検討もしてきた。

- ・グループホームの訪問調査を行い、施錠や研修などの課題を持った。介護サービス事業者連絡会のグループホーム部会と共催で研修会を開催し、施錠は拘束であるという共通理解を持った。今後は金沢市のグループホームのあるべき姿を検討していきたい。

#### ○質疑応答

- (委員) ホームの入居者はこれまでの生活歴や人格の多様性からその対応は一口では語れない。建物の構造上の問題のほか、心のある介護者によるケアや入居者間の交流など検討すべき課題は多い。
- (委員) グループホームは生まれてからまだ日が浅く、優秀な人材の不足や小規模であるがゆえの経営上の問題もある。経営者にも福祉の理念が必要である。現在入居している高齢者がホームで年月を重ねるにつれ介護度が重くなるなどの課題もある。ホームの状況によっては施錠が必要な場合もある。
- (委員) グループホームで他の介護サービスを利用する際は、事業者負担となっているがなぜか。
- (事務局) グループホームでのサービスは在宅サービスの一つであり、ホームでは対応が困難な居宅療養管理指導以外の在宅介護サービスを受けようとする場合は事業者負担となる。現在、国では訪問看護の利用ができないか検討中である。
- (委員) 痴呆高齢者の介護者には個別の対応できる力量が必要である。1人の高齢者に対し入浴時などは2人の介護者が必要な場合もある。地域の協力を得る工夫も必要ではないか。
- (委員) 訪問したグループホームは建築されて間もないこともあり、清潔で整理されていた。経営者にスタッフが振り回されゆとりのない感じを受けるホームもあった。
- (委員) 医療保険の適正化も検討されている。グループホームについてはハード面、ソフト面の課題があると思う。これまでは福祉や医療の法人が事業展開をしていたが、株式会社などの参入により経営的な採算も重要視されてきているようだ。基準にあったサービスが実際に行われているか注視すべきである。
- (会長) グループホームのあるべき姿については苦情等専門部会で引き続き検討することでよいか。
- (委員) 異議なし
- (会長) 苦情等専門部会で検討し、今後の運営協議会で報告してほしい。